

# 大igest

# Tsukamoto Dai Digest



DAI通信 第22号

## 自民改革会議の活動

### 静岡県内、全地域の要望を聞き取り調査

私が所属している自民党には、静岡県内に67の市町支部があります。



毎年、67全ての市町支部の皆様から地域の**実状・要望**を聞かせて頂いており、今年もその会合を開かせて頂きました。

今後、**さまざまな分野・業種で働いている方々の声**を県政に反映させるために、県内のそれらを代表する組織・団体の皆様から要望を聞かせて頂く会合を開いて参ります。

これらの聞き取り調査をもとに、県民の求める重点要望をとりまとめ、12月に、知事に来年度予算要望として申し入れを行う予定です。

今後も、県民の声が、県政に反映出来るよう全力で取り組んで参ります。



## 大規模な補正予算 国の経済対策に呼応

静岡県議会9月定例会（10月13日閉会）では、一般会計に236億2千500万円を追加する補正予算案等について審議致しました。

9月補正予算は、川勝知事が県政の基本理念に掲げている「富国・徳の理想郷」ふじのくにづくりに「総仕上げに向けて、来年度当初予算に先立って必要となる事前準備・早期着手を行う事業に加え、国の経済対策に呼応して予算措置が必要な事業、当初予算編成後の事情変化により必要となった事業等を実施するための経費が計上されております。

具体的には、東京オリンピック・パラリンピック自転車競技会場のアクセス道路を前倒して整備するための経費、ラグビーワールドカップ2019会場の小笠山総合運動公園の設備を改修す

るための経費、焼津漁港の冷蔵施設整備を支援するための経費に加え、相模原市の障害者施設殺傷事件を受けて、障害者支援施設や児童養護施設、児童館等、社会福祉施設の防犯対策に対して助成する経費等であります。

また、補正予算案以外の議案の中には、東日本大震災及び熊本地震の教訓を踏まえ、想定される大地震からの被害を出来る限り軽減し、地震対策を充実、強化するための条例の改正や水産技術研究所等庁舎新築工事の請負契約等も含まれております。

今後も、暮らしの「いま」と「未来」をしっかりと見詰め、住みやすい地域づくりに努めて参ります。これからも「大igest」や「ホームページ」で議会活動を掲載していきますので、是非ご覧頂き、皆様のご意見を頂ければ幸いです。

塚本 大

## ふじのくにケアフェスタ2016

学生及びその保護者並びに介護職員をターゲットに、介護職の魅力を発信することで、介護職に対する理解と関心を喚起し、若年層の介護分野への就業と介護職員の職場定着を目的に「ふじのくにケアフェスタ2016」を開催致しました。



会場では、介護技術コンテスト、介護の仕事・学校紹介、ステージイベント、体験・展示等が行われ、2日間で10,103人の来場、58団体の出展を得て、大変盛況でした。

開催年月日 平成28年9月17日(土)・18日(日)

開催場所 ツインメッセ静岡 北館

来場者数 10,103人(2日間)



## 『志太榛原農林事務所管内』現地視察

### JA大井川 高糖度トマト集出荷施設(藤枝市下之郷)

#### 生産拡大に対応する新たな選果場を整備

～強い農業づくり交付金を活用～

高糖度トマト「アメーラ」、高糖度ミニトマト「アメーラルピンズ」は、JA大井川の主力品目であり、市場からの取引量増大が要望されています。この為、生産の拡大に対応する光センサーを備え付けた新たな選果場を整備しました。

年間処理量「アメーラ」416t、「アメーラルピンズ」26tを京浜、関西方面等、全国13市場へ出荷しています。

<事業の概要>

項目	内容
補助事業名	平成26年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）
事業主体	JA大井川
事業内容	高糖度トマト・高糖度ミニトマト集出荷選果施設 鉄骨造2階建て 延床面積 1,978㎡ 選果ライン 4ライン（新設 2、移設 2ライン）
事業費	総事業費 320,760千円 （補助対象事業分 299,268千円 うち交付金 138,550千円）



### 産地パワーアップ事業を活用し、生産拡大

<今後の取り組み>

高糖度トマト生産を行う**（株）サンファーマーズ**※1は、集出荷施設に隣接した農地で、**産地パワーアップ事業**※2を活用したハウス0.64haを整備し、生産拡大を計画しています。

※1 **（株）サンファーマーズ**

15経営体（10生産法人、2営農組合、3株式会社）で構成され、県内8市町（焼津市、藤枝市、牧之原市、浜松市、静岡市、富士宮市、沼津市、小山町）、計16haで、高糖度トマトの生産管理及び販売を行っています。高糖度トマトのトップブランドとして、品質、量ともに消費者、市場・流通業者から高い評価を得ています。



施設外観

※2 **産地パワーアップ事業**

地域の営農戦略に基づき、高収益な作物・栽培体系への転換を図る取り組みに必要な機械や機器のリース導入、施設整備、改植、必要資材の導入に対し助成する事業。



選果ライン

## 森の力再生事業 三ツ池地区(藤枝市下藪田)

森の力再生事業による整備

### 「森林づくり県民税」で荒廃森林を再生

～事業実施後、継続して里山を整備～

森林の多面的な機能を持続的に発揮させる為、平成18年度から27年度までの10年間に、県全体で12,355 haの荒廃森林を整備し、当初目標であった12,300haを達成しました。（※志太榛原管内実績：約2,243ha）

また、「森林づくり県民税」を延長して、今年度以降も引き続き事業を実施して参ります。

### 放置された竹林を整備し、桜が咲く憩いの場に

～三ツ池里山の会(藤枝市下藪田)の取り組み～

藤枝市下藪田では、放置された竹林がヤブ状態となっており、地元住民の懸案となっていました。

この為、森林組合おおいがわが、森の力再生事業(平成22年度、23年度)を活用して竹を伐採し、広葉樹を植えました。

現在では地元の三ツ池里山の会が中心となって、下草刈りや広葉樹植栽を行い、桜が咲く憩いの場づくりに取り組んでいます。

地域による憩いの場づくり



桜等の植栽

下草刈り



整備前



整備後

## 焼津東部排水機場(焼津市浜当目)

### 焼津東部排水機場、施設更新

～農地被害、家屋の床上、床下浸水被害を防ぐ～

<現在の状況>

本地区は、焼津市東部に位置する水田地帯で、地形上自然排水が困難な湛水被害の多い地域です。その為、昭和44年度に県営灌漑排水事業により排水機場及び幹線排水路が整備されました。その後、施設機械については、耐用年数が超過している中で、補修を繰り返しながら使用してきました。しかし、老朽化が著しく、交換部品の製造も中止になる等、継続使用が困難な状況となっています。また、建屋については、施設管理者による耐震診断の結果、耐震性不足と判定され、施設に隣接する東海道本線への影響も懸念されています。

<事業の必要性>

当該施設の機能保全対策を早急の実施し、農地被害、家屋の床上、床下浸水被害を防ぎ、農業経営の安定化を図るとともに、建屋の耐震化により周辺への影響を未然に防ぐ必要があります。そこで、施設の機能診断により策定した機能保全計画に基づき、ライフサイクルコストの低減や施設の更新及び維持管理に要する経費の平準化を図るために**施設更新を実施**することになりました。

受益面積			受益戸数	事業費	予定工期
水田	畑	計			
ha	ha	ha	戸	千円	年度
44.6	2.6	47.2	326	584,000	H27 ~ H32



### 社会福祉法人 中伊豆リハビリテーションセンター (伊豆市)



中伊豆リハビリテーションセンターは、交通事故等により障害をもたれた方々の社会復帰を支援するための施設として、昭和48年に全国共済農業協同組合連合会の全面支援を受け、開設された施設です。当センターは、医療、福祉、介護の3部門からなり、各々が連携を図りつつ障害を持った方々の支援を行っています。

身体機能の回復、地域での生活の実現を目指すロボットスーツHAL等を利用した先進的なリハビリテーションの状況について調査を行いました。

#### <ロボットスーツHALの概要>

体に装着することによって、身体機能を改善・拡張・補助することが出来る世界初のサイボーグ型ロボットです。人が筋肉を動かさずとした時に発する微弱な生体電位信号を検出し、身体の不自由な方の動き、動作をアシストします。



### 旭化成ファーマ株式会社 医薬研究センター (伊豆の国市)



旭化成ファーマ(株)は、総合化学メーカーである旭化成(株)の分社・持株会社制への移行に伴い、平成15年に設立された医薬・医療カンパニーです。

医薬品開発の中核を担う医薬研究センターでは、最新の実験機器や実験設備を整えることで創業研究開発機能を強化し、グローバルに競争力のある研究環境を整備する為、平成25年に創業棟を竣工しました。

同センターにおける最先端の医薬品研究設備の現状と今後の創業事業の展開について調査しました。

#### 主な質疑応答

- ① 創業実験の成功率はどの位か。  
A 0~30件に1件が製品化。10%位の成功確率を目指している。
- ② 新薬を出していなければならぬとの事であるが、ジェネリックが動められていることについてどのように考えるか。  
A 後発品開発は考えていない。医療行政の中でジェネリックを推進するのは仕方ない事である。ジェネリックは、安く、作り方が分かっており、製造工程で差別化出来る。基礎研究から臨床研究で他社と差別化して、研究開発していく。
- ③ 新薬を製造し、認可を受け、保険薬になるまでどの位の期間を要するか。  
A 短くて8年、長いものでは15年かかる。

### 社会福祉法人湖成会 特別養護老人ホーム月のあかり (富士市)



月のあかりは、社会福祉法人湖成会が平成27年10月に開設した特別養護老人ホームで、老舗旅館のような趣の建物や季節の移ろいを楽しめる中庭等を備えています。

地域の方も利用出来る食事サービスや認知症サポーター養成講座の開催等、各種サービスの実施状況や課題、施設の現状について調査を行いました。

#### 主な質疑応答

- ① 介護士の確保が問題になっているが、地元採用か。  
A 80名の職員は富士市、富士宮市がほとんどで地元が多い。採用は厳しい状況で、看護師、リハビリ技師だけでなく、今は介護スタッフも厳しくなっている。新卒の採用を年間通して行い、資格がなくても人に関わる仕事を希望する人は雇い、法人内の学校に通い、働ながら資格を取ってもらっている。
- ② 建物の投資額は。  
A 建物の総工費：12億円(坪単価：95万円)、4年前に建てた施設は坪単価65万円であった。建築費が高騰している。
- ③ 「施設」という感じではなく、地域の人から使いやすい建物にしている。認知症カフェの実施等、地域の中でお互いの顔の見え関係、ネットワークづくりが法人の役割と考える、大切にしている。
- ④ 職員の賃金はどの位か。  
A 他の業種と比べると低い何が出来るかを考えながら対応している。介護職員処遇改善加算により、介護職に限定して増額支給出来るが、栄養士、相談員には手当出来ない。制度の課題であると思う。

### 厚生委員会 視察

当委員会のメンバーは全員、5月の臨時議会において、厚生委員会に所属することが決まりました。委員長を務めさせていただきます。委員長の視察先として、早稲田大学に所属する「厚生委員会」で審議することになる県内の医療・福祉・子育て支援等の現場の状況を視察させて頂き、今後の委員会活動に活かしていきたいとの思いから、7月に視察を組ませて頂きました。

### 静岡県立吉原林間学園 (富士市)



静岡県立吉原林間学園は、軽度の情緒障害児童が短期間入園して、自立心や社会性を身につけるために心理療養、生活指導及び学校教育を受ける施設として、昭和37年9月1日、全国で2番目に開設されました。近年は、児童虐待相談の増加に伴い、被害児童を優先的に入所させ、心理療養等による治療に積極的に取り組んでいます。また、昭和57年の改築以降、施設の老朽化が見られる為、現在、改築整備事業が進められ、平成30年度末の開所を目指しています。吉原林間学園の施設や運営の状況及び課題並びに施設の移転改築整備事業について視察しました。

#### 主な質疑応答

- ① 在園期間と家庭に戻すタイミングは。  
A 在園期間は1年~5.6年程度で、家庭の状況による。(平均は2年~3年) 家庭に戻すタイミングは、主に小学校6年生卒業時と中学校3年生卒業時。児童養護施設に入れたがうまくいかなかったり児童相談所で検討中の子供がいる。
- ② 寮の生活環境はどうか。  
A 吹き抜けがあることから、泣き叫ぶ声が聞こえ、生活空間としてはあまり良い環境ではない。改築時に個室にする予定だが、目が行き届かなくなるオプション。当初小学生向けに作られ、オープン時に中学生も入れるようになった為、中学生に合わない施設がある。
- ③ どの位の子供が社会に戻れるか。  
A 半分位は社会生活が出来るようになっていく。税金をもらうのではなく、払える人になってもらう必要がある。しかし、虐待の期間が長いとそれなりに入園期間が必要。虐待が疑われる親をグレーな状態で釈放すると被害に至ることが多い。

### 社会福祉法人 静岡恵明学園 (三島市)



静岡恵明学園は、昭和27年に恵明学園三島幼児部として発足しました。昭和45年に乳児部が認可され、平成6年に保育園と子育て支援センターを併設した赤ちゃんセンターが完成しました。0才からおむね2才までの保護者のいない乳児を家庭に代わって育てています。

保育園や子育て支援センターを併設していることから、支援センターに遊びに来た地域の子どもや保護者と乳児院の子どもと一緒に遊ぶ機会を設け、乳児院の子どもの社会性を養っています。今回の視察では、乳児養護施設の運営の現状を視察しました。

#### 主な質疑応答

- ① 子供達はどのようにこの施設に来るのか。  
A 民生委員からの連絡、親が自分で児童相談所に相談する。一時保護は状況がよくなったら家に帰す。措置\*についてはずっと預かることになる。
- \*措置  
保護者がいない、虐待を受けている等の理由により、児童を保護、救済する必要があると児童相談所が判断して児童養護施設等に入所させること。

### 静岡県立静岡がんセンター (長泉町)



静岡がんセンターは、本県のがん医療の中核施設として、外来通院治療センターの設置、陽子線治療の実施、最新型のダビチンXiの導入等、診療機能の強化を図っています。これらの施設整備状況の調査にあわせ、医師・看護師の確保対策等、同センターの運営状況を調査しました。

#### 主な質疑応答

- ① がんセンターが抱える課題、問題や要望は何か。  
A ・看護師の確保(今後数年は苦勞するが総長が率先して確保に努めている)  
・がんに関係ない所での医師確保(麻酔医や画像診断医等)  
・20~30年後の建替え時の用地取得

### 自民改革会議 代表質問

#### (1)知事の政治姿勢について

##### ②富士山静岡空港西側エリアの将来展望

【質問】 今定例会に提案されている旅客ターミナルビルの増築・改修の例は、先導的空港経営検討会議の答申を受け、県が取り組み方針を示したものであると承知しているが、その他にもターミナル地区周辺については、色々な話題が浮上している。

例えば、知事は「航空自衛隊静浜基地の富士山静岡空港への移転」や、「航空博物館を整備する構想」を示された。こうした話が、県民に場当たり的、思いつきと思われるよう、空港西側エリアの将来展望を全体の絵姿として示すべきと考えるが、知事の考えを伺う。

【知事 答弁】 富士山静岡空港は、今後の県政発展に不可欠な社会資本です。首都圏空港の一翼を担う我が国のゲートウェイにふさわしいよう、人々が集い、賑わい、魅力あふれる空港としていかなければなりません。また、大規模災害時に広域応援を行う防災拠点として、整備を進めていかなければなりません。このために、空港の中核的な役割を担う旅客ターミナルビルの増築・改修に、現在、取り組んでいるところであります。また、**空港西側の空間の有効活用**を図る為、本年3月に区域ごとの土地利用計画について広く情報を発信したところであります。

更に選ばれ平成21年度、今から7年前、空港ターミナル地区から**原子力防災センター**までの約7haの区域を含む全体を**空港ティージャーデンシティ**として整備するという事で、県民の皆様、特に地域の人々とは、様々な場面で意見を交換して参りました。

そのうちの一つが、**石雲院の展望台**であります。さて、この区域に、研究・教育機能を備えた航空博物館を立地したいという御意向を静岡理工科大学から頂いております。将来的には、今後成長が期待される航空関連産業の立地も視野に入れながら、土地の利活用を計画的に進めていく必要があるというふうを考えております。

また、原子力防災センターより西の約16haにつきましては、災害時の大規模な広域防災拠点として国から御指定を頂いております。これまでに、原子力防災センターと災害時に部隊の活動拠点となる多目的用地の合計3haの整備を完了させました。

残りの13haにつきましては、災害時に活用する警察・消防・自衛隊等の一時集結地や活動拠点として活用出来るよう、現在、具体化に向けた協議を進めているところであります。

#### とどの土地利用計画について広く情報を発信したところであります。

更に選ばれ平成21年度、今から7年前、空港ターミナル地区から**原子力防災センター**までの約7haの区域を含む全体を**空港ティージャーデンシティ**として整備するという事で、県民の皆様、特に地域の人々とは、様々な場面で意見を交換して参りました。

そのうちの一つが、**石雲院の展望台**であります。さて、この区域に、研究・教育機能を備えた航空博物館を立地したいという御意向を静岡理工科大学から頂いております。将来的には、今後成長が期待される航空関連産業の立地も視野に入れながら、土地の利活用を計画的に進めていく必要があるというふうを考えております。

また、原子力防災センターより西の約16haにつきましては、災害時の大規模な広域防災拠点として国から御指定を頂いております。これまでに、原子力防災センターと災害時に部隊の活動拠点となる多目的用地の合計3haの整備を完了させました。

残りの13haにつきましては、災害時に活用する警察・消防・自衛隊等の一時集結地や活動拠点として活用出来るよう、現在、具体化に向けた協議を進めているところであります。

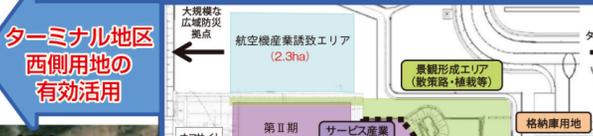
### 自民改革会議

#### 9月定例会本会議

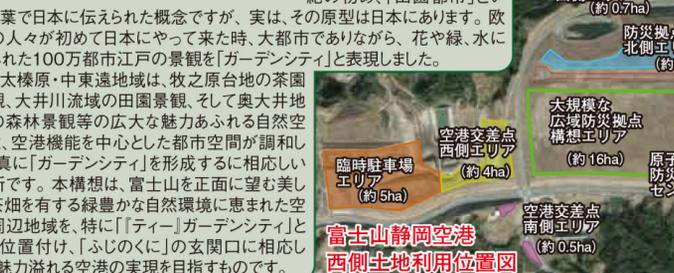
- 代表質問
- 自民改革会議としては、本会議において、以下の内容を代表質問致しました。
- 1) 知事の政治姿勢について
  - 2) 富士山静岡空港西側エリアの将来展望
  - 3) グローバル人材の育成について
  - 4) 若者に対する消費者教育について
  - 5) 地方創生について
  - 6) 大規模地震対策特別措置法に基づく防災対応の見直しについて
  - 7) 児童虐待への対応について
  - 8) 健康寿命日本一の延伸について
  - 9) 農業分野の強化について
  - 10) 県警の運営に対する警察本部長の所信について

### 空港ターミナル地区西側用地の有効活用

民間事業者複数の方から参加表明書が提出され、最終的に1者から「提案準備作業中であり、格納庫の整備・運営を行う民間事業者を選定致すための時間を頂きたい」との申し出がありました。この為、今後、この参加表明者と必要な協議を進めていくこととしています。



### 空港ティージャーデンシティ



### 旅客ターミナルビルの増築・改修

旅客ターミナルビルにつきましては、増築・改修をし、国際線については、航空会社が希望する時間帯に就航出来るよう、1時間に3便受け入れられる機能を確保する他、飲食・物販店の拡充等、利用者の利便性の大幅な向上を図って参ります。平成30年10月の完成を目指し、着実に工事を進めて参ります。

### 静岡県社会福祉審議会

静岡県社会福祉審議会の委員は30名で、障害者福祉専門分科会・老人福祉専門分科会・児童福祉専門分科会のいずれかの分科会に所属します。また、委員30名のうち6名は、民生委員審査専門分科会を兼務します。

私は、児童福祉専門分科会に所属し、民生委員審査専門分科会を兼務することになりました。

#### 第1回静岡県社会福祉審議会

- 社会福祉審議会委員による全体会を開催し、県からの報告及び質疑応答等を行いました。全体会終了後、各委員は、それぞれの専門分科会に参加し、専門分野における議題について審議が行われました。
- ・第3期静岡県地域福祉支援計画の策定及び生活困窮者対策について
  - ・地域包括ケアシステムの推進について(医療と介護の総合的な確保)
  - ・介護・保育人材確保等に係る貸付制度について(介護人材確保、保育士確保、ひとり親家庭支援等)
  - ・社会福祉法人制度改革について
  - ・「ふじのくに」に少子化突破戦略の羅針盤」の概要について
  - ・静岡県子ども貧困対策計画」の策定と支援について
  - ・障害者差別解消法への対応について

#### 児童福祉専門分科会

- ・児童虐待検証部会\*1における審議状況について(報告事項)
- ・児童福祉法等の改正について(報告事項)

#### 第2回静岡県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会

- (1)協議事項  
里親の認定について  
申請のあった10件の里親認定について審議を行い、里親として適当と認められるとの結論となった。
- (2)報告事項  
・児童虐待特別部会\*2における審議結果について  
児童虐待検証部会報告書の提出について  
平成24年5月から平成26年10月に発生した4件の児童虐待による死亡事例について、事実の把握、発生原因の分析、検証及び必要な改善策について審議され、報告書が取りまとめられた。報告書は平成28年8月30日、健康福祉部長に提出された。
- ・平成27年度児童虐待相談件数について  
平成27年度中に県内の児童相談所が対応した児童虐待の相談件数は、2,205件で過去最多を更新した。
  - ・種類別では、心理的虐待が1,014件(46.0%)で最も多かった。
  - ・相談経路別では、「警察等」から581件、「近隣・知人」から509件と多く、それぞれ過去最多となった。

#### \*1 児童虐待検証部会

平成20年12月2日に設置され、重大な虐待事例に関して、児童虐待防止等のために必要な事項についての調査研究及び検証を行う組織。

#### \*2 児童虐待特別部会

児童相談所が施設入所措置等を行う場合の専門性と客観性を高めることを目的に、平成10年4月1日に設置され、児童の権利を擁護する為、知事の諮問に対し、意見を述べる組織。

#### 静岡県国土利用計画審議会

<審議会の設置目的及び概要>  
静岡県国土利用計画審議会は、国土利用計画法及び静岡県国土利用計画審議会条例に基づき、国土利用計画法に定められた事項を調査審議する他、静岡県における国土の利用に関する基本的な事項及び土地利用に関し重要な事項を調査審議します。

<審議の状況>  
国は、平成27年8月、国土を適正に利用するための総合的な計画である国土利用計画(全国計画)を策定しました。

全国計画の策定を踏まえ、新たな静岡県国土利用計画の策定に向け、第1回の審議会が開催されました。

今年度、厚生委員会の委員を務めさせていただきます。様々な機会に出席させて頂いておられます。その内容を一部ご紹介いたします。



厚生委員・児童委員の任期は3年です。現任委員の任期が平成28年11月30日満了に伴い、平成28年12月1日に委員の1斉改選が行われます(民生委員法第10条)。

民生委員は、県が国へ推薦する際に、社会福祉審議会の意見を聴くこととされています(同法第5条)。

この為、今回の1斉改選に伴い審査を実施する為、第2回静岡県社会福祉審議会民生委員審査専門分科会が開催されました。

<審議の状況>(主な意見)  
・民生委員の年齢基準(地区委員:原則75歳未満、主任児童委員:原則55歳未満)は、時代に沿って見直しをしているのか。  
・市町から推薦があった者は、資質的には問題がなく信頼のおける者であると推測されるが、年齢基準を超過している等の理由で、過去に市町に差し戻しをしたケースはあるのか。  
・年齢については、個人差が大きい。地域で認められている人物ならば基本的に問題はない。

本的に問題はない。

候補者に依頼する際には、会議への出席や活動報告等も含めた民生委員活動の内容について、しっかり説明した上で、内諾を得る必要がある。

<今後の予定>  
・審査の結果、市町から推薦された候補者全員を国へ推薦することが認められた。

・定数を満たしていない市町がある為、後日、追加推薦分に関する審査を実施することとなった。

・県は、今回審査分と追加審査分を合わせ、10月末までに国に対し候補者の推薦を行う。

(1)審議事項:静岡県国土利用計画(第五次)骨子(案)について  
(2)意見要旨一部紹介  
・新東名等の新しく出来た高速道路のICばかりでなく、東名高速のように既存の高速道路で新しく出来たIC周辺の土地利用も推進する視点が必要である。  
・国・県道等の幹線道路周辺においても開発適地があるので、高規格幹線道路だけでなく、幹線道路周辺用地も都市的的土地利用に位置付けてはどうか。  
・工業用地について、生産工場ばかりでなく、研究開発の誘致等、従来型の造成から少し違った工業利用に切り替える視点も必要である。

